

鈴木弘睦 議員

若者の定住化に向けての 取り組みは

問 定住化促進を促す支援策などの考えはあるか。

答 雇用の場の創出として豊沢地区・小笠山麓・三川西山地区などの開発、若者の起業を支援する取り組みや、Uターンなどへの支援も検討していききたい。

仮称袋井防災センター 整備の方向性は

問 関係機関との連携は、どのように取っていくのか。

答 規模や機能などについては、消防本部と連携を図りたい。消防団については消防団長と消防員の執務室などを新たに設け、消防団の意向に沿った施設になるよう連携を図っていききたい。



消防団の非常召集演習

平和政策と平和教育への 取り組みは

問 終戦から70年の節目の本年、袋井市として平和政策をどのように推進するのか。

答 平和都市を宣言している市として重要な使命である。未来を担う子どもたちが、安心して暮らせる世界を築くため、市民の皆さんの平和への関心が高まるように積極的に事業に取り組みたい。

寺田守 議員

沖之川流域の 治水対策の検証

問 昨年10月の台風18号では、同流域でも広範囲に浸水被害が発生した。大谷川の逆流防止樋門の効果など、治水対策は検証されたか。

答 この台風では時間当たりの最大降雨量68mm、総雨量337mmという豪雨が短時間に集中した。同樋門の上流と下流では37mmの水位差が観測でき、一定の効果は検証できた。

問 沖之川の流下能力が低いことが今回も明らかになった。対策は進んでいるのか。

答 新旭橋から国1バイパス付近で局地豪雨緊急対策事業による護岸工事を始めた。現況の流下能力は毎秒28m³、概ね2年に1回の雨に対応した安全度だが、完成すれば毎秒35m³、概ね5年に1回の雨に対応可能となる。引き続き早期完成を県に求めたい。



台風18号による浸水被害

小山鷲巣線の整備計画は

問 小山鷲巣線の鷲巣地内の道路は狭あいでカーブも多く、かねてより危険性が指摘されている。整備計画はどうか。

答 平成27年度から事業化に向けた準備を始め、地元とも協議していききたい。事業化にあたっては危険性や重要性などを考慮し、効果が早期に期待できる区間を優先して整備することも考えている。